

平成 20 年度 第 1 回日本家庭医療学会理事会議事録

日 時：2008 年 5 月 31 日（日）9:00～10:00

会 場：東京大学 山上会館 地階 001

出席者：代表理事 山田隆司

副代表理事 竹村洋典、葛西龍樹

理 事 雨森正記、生坂政臣、大西弘高、亀谷 学、草場鉄周、小林裕幸、白浜雅司、西村真紀、伴信太郎、藤沼康樹、松下明、三瀬順一、森 敬良、山本和利（以下は、委任状による出席）岡田唯男

監 事 藤崎和彦

幹 事 福士元春

オブザーバー 阪本直人

（以上、敬称略）

理事会定数 18 名中 18 名（うち委任状出席 1 名）の出席により、理事会成立

1. 会員数報告、新入会員承認、会費未納退会者

山田代表理事より、2008 年 4 月 30 日現在で会員数が 1,701 名となったこと、今回の退会者数には、会費未納による退会者が含まれていることが報告された。

松下理事より会費未納者への督促の有無について質問があった。これに対し、学会事務局より例年 2 月に督促状を送付し、2 年以上会費を滞納している会員については年度末までに会費入金がない場合、退会となる旨を通知していることが報告された。

つづいて新入会者について承認された。

会員数：1,701 名（うち、医師会員 1,580 名）

入会者：92 名（2008 年 2 月 1 日～2008 年 4 月 30 日）

退会者：103 名（2008 年 2 月 1 日～2008 年 4 月 30 日）

未納者：63 名（H17 まで納入済）

会費未納率：64%（2008 年 4 月 30 日現在）

2. 平成 19 年度事業・決算報告

山田代表理事より、平成 19 年度の実業および決算について報告があった。予算と比較し、収入の部では、会員数の増加、プログラム認定登録費、学術集会の黒字決算、Scene の販売等により収入が増加したことが説明された。支出の部では、3 学会合同会議、Scene 印刷費等が予算を上回ったことが報告された。この結果、次期繰越金が 7,291,802 円となったことが報告された。

3. 同年度監査報告

藤崎監事より、会計監査および学会運営の総括および評価が述べられた。昨年につき 100 万円程度の赤字決算となっていることについて、プログラム認定や 3 学会合併に関する会議増加はやむを得ないが、行事開催による赤字決算が多いことも関連しているとの意見が述べられた。また収入について、今期はプログラム登録費による収入と会員の増加による収入増があったが、このような収支構造でよいかどうかとの感想とともに、解散・合併時には、赤字も黒字も持たないよう運営を行うことが適切との意見が述べられた。

監査および事業報告・決算内容について承認された。

4. 平成 20 年度事業計画・予算について

山田代表理事より、平成 20 年度事業計画・予算について下記の説明がなされ、当期は 330 万の赤字となり、繰越金は 400 万弱となる見込みであることが述べられた。収支差額が赤字となることについて、前項の監事からの指摘を踏まえ改善策を検討することが必要との前提のうえで、夏期セミナー等の学生へのサポート、交流については本学会の特徴として予算の枠組みだけにとらわれず継続して行う方向が示された。事業計画・予算内容について承認された。

5. 常設委員会・部会・ワーキンググループ報告

◇ 編集委員会

藤沼理事より、今までは査読について諾否の伺いを行っていなかったが、今後は諾否を伺ったうえで依頼する形に変更したことが報告された。

◇ 広報委員会

松下理事より、会報は予定通り年 4 回発行を行っていることが報告された。
三瀬理事より、学会ホームページについて掲載情報の整理が行われたこと、委員を募りアドバイザーの立場で合意を得て進める形ができたことが報告された。一般向けのページについては、任期中に完成に至らなかったが、現在の方向で次期担当者に引き継ぎたいと述べられた。

◇ 生涯教育委員会

伴理事より、明日夜に委員会の開催が予定されており、第 16 回生涯教育ワークショップの準備状況について雨森理事を中心にプログラミングを行っていることが報告された。また、広島でのサテライトワークショップ開催、田坂先生メモリアル出版『Scene』の増刷についても企画が進んでいること、引き続き会報への CME のリソース提供を行っていくことが報告された。

◇ 研究委員会

山本理事より、学会賞の審査方法の改訂を行ったことが報告された。

◇ 倫理委員会

白浜理事より、倫理審査依頼が一件あったこと、本理事会終了後に開催される倫理委員会で倫理的な配慮についてプロの方の意見を聞いたうえでもう少し提示していきたいとの意向が示された。また、倫理コンサルテーションの依頼件数は0件との報告がなされ、今後は受け皿があることについてアピールしていくことを考えていることが述べられた。

◇ 後期研修（FD）委員会

草場理事より、指導医養成WSについて年3回の開催で日程を調整していることが報告された。昨年度の同事業の赤字については、開催日程の決定が遅れたことで安い会場をおさえることが出来なかったことも一因であるとの意見が出され、今後は、日程の早期決定による安価な会場予約の実現、参加費用の検討などを行っていくことが課題となった。

また、執行部より、プログラム責任者の会の代表者がオブザーバーとして理事会に出席予定であること、前回のプログラム責任者の会にて同会の規約について改定案が出されたことが報告され、改訂案については理事会メーリングリストまたは次回理事会で承認を得たい意向であることが述べられた。

◇ 患者教育用パンフレット作成WG

阪本氏より、患者教育パンフレットは、現在53名の作成メンバーにより構成されていることが報告された。また、小児からターミナルケアまで22のテーマを、グループまたは個人で担当する予定であり、活動の進行は予定より遅れているが、学術集会の懇親会時にメンバー約20名が顔合わせを行い、今後の活動を盛り上げていく予定であることが述べられた。

◇ 若手家庭医部会

森理事より、若手家庭医部会の活動について報告があった。

- ・第3回冬期セミナーは参加者が少なかったことが主な原因で赤字決算となったが、今後は場所等を検討し赤字を埋めていきたい。
- ・若手家庭医部会の選挙を行い、朝倉健太郎新代表が選出された。
- ・後期研修医の進路選択について、若手家庭医部会として協力、支援していく予定である。
- ・明日総会を開催し、今後の事業方針を決めていく。
- ・冬期セミナー時に開催されたポストセミナーにて登録研修医の会が初めて行われ、19名の登録研修医が参加した。その中で、後期研修医がロールモデルや施設を越えた交流などを求めていることが分かった。
- ・今回の学術集会ではワークショップ「後期研修医と語る後期研修」を開催し、その内容はWEBにて報告を掲載する予定。

◇ 学生研修医部会

小林理事より、8月9日～11日に開催される夏期セミナーについて報告があった。

夏期セミナーに医師・医学生以外（歯学部の学生や看護学生など）からの参加希望があ

ることが報告され、定員にあまりがあれば参加を少人数で認めていくことが承認された。

6. 第 23 回日本家庭医療学会学術集会について

葛西副代表理事より、学術集会について、海外講師 2 名が事情により参加できなくなったことが報告された。また、海外講師の旅費負担についての変更案が提案された。当初の予算の範囲内での変更であることが説明され、承認された。

7. 第 24 回日本家庭医療学会学術集会について

雨森理事より、第 24 回学術集会（合同大会）について、プライマリ・ケア学会が事務局となり、大卒の原案が示された段階であることが報告された。

最後に山田代表理事より、これまでの 2 年間の学会運営に対する評価とお礼が述べられた。